



小高小中学校の小中一貫教育の現状評価から 考える今後の方向性について

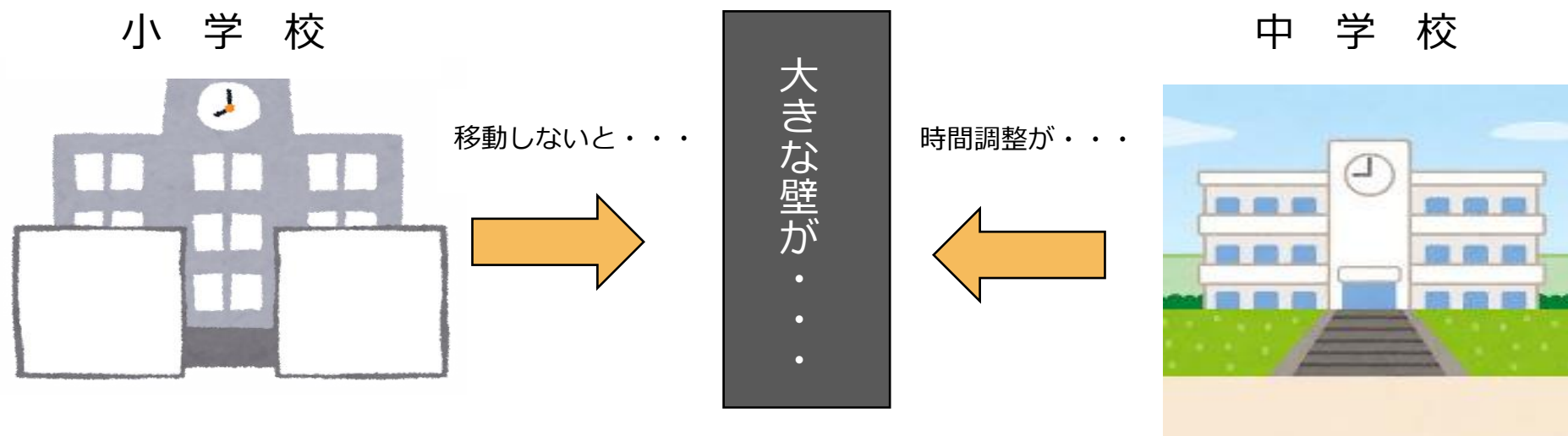
～小高区の新しい学校づくりに向けて、
小中一貫教育の「理想」と「現状」から考える～



1 課題の解決に向けて

これまでの小中一貫教育では、教職員の尽力により、「義務教育9年間を見通し、系統性・連続性を確保した教育課程を編成・実施する」ため、様々な取り組みを進めてきた。一方で、**2つの大きな壁が存在する。**

大きな壁 その1：施設が分離していることによる課題



- 施設が離れていることで移動に時間がかかる。
- 日常的な情報共有が難しいことや授業の打ち合わせをするための時間の確保に調整が必要など、**施設が少しでも離れていることで生じる大きな壁が存在する。**



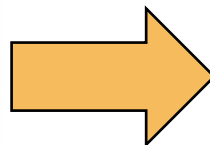
1 課題の解決に向けて

大きな壁 その2：文化・制度的な壁による課題

小 学 校



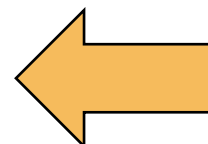
学校間での
調整が難しい・・・



大きな壁が
・・・

中 学 校

中学校の方針は決定
したけど小学校は
どうかな・・・



- 小学校と中学校には、これまで培ってきた学校種独自の文化がある。
- 校長の考え方により、学校の方針が分かれる可能性がある。
- 学校組織が違うため、教職員組織は小学校・中学校に分かれている。
など、**文化・制度的な違いで生じる大きな壁が存在する。**



1 課題の解決に向けて

この大きな壁をなくすための方向性は？

大きな壁 その1：施設が分離していることによる課題

★解決のためには・・・「施設の一体化」が必要では？

- 乗り入れ授業の際の負担やタイムロスの課題への対応が可能になる。
- 同じ施設にいることにより、日常的な情報共有などが容易になる。

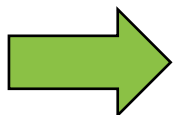
大きな壁 その2：文化・制度的な壁による課題

★解決のためには・・・「学校を1つにする」ことが必要では？

- 学校が1つであれば、教員組織と校長が一体であるため、校長のリーダーシップのもとで学校運営に一体感が生まれやすい。その結果、小中学校間の文化の違いを乗り越え、異学年交流や乗り入れ授業などを促進するための柔軟なスケジュール調整が可能になる。

【大きな壁を取り除いたことで期待される効果】

- 校長のリーダーシップのもと、教職員一体となった学校運営が可能になる。
- 大きな壁を取り除くことで、教職員全体で、義務教育9年間でどのような子どもを育てていくのかイメージが共有され、一貫した指導体制が可能になる。
- 9年間を見通した教育課程の編成により、小学校で学んだことが中学校でどのように、深まるのかという教科内の繋がりが明確になるため、学力の定着が図れる。
- 日常の中で、子どもたちと向き合う時間が増える。





1 課題の解決に向けて

- 小中一貫教育の真の目的は、9年間の学びと育ちを切れ目なくつなぐこと。
- そのためには、「目指す子ども像の共有」や「9年間を通じた教育課程の編成や系統的な指導」が不可欠。
- しかし、現在の『施設が別々』『学校組織が別々』という仕組みでは、理想の教育の実現には限界がある。

ここを改善したい



2-① 南相馬市教育委員会の提案（課題解決に向けた新しい学校の形）

小中一貫教育の効果を高め、「子どもたち9年間の学びを一貫したもの」にし、自らの手で未来を切りひらき生きぬく子どもたちを育てるため、「施設一体型の義務教育学校」を提案します。

施設一体型の義務教育学校とした場合のイメージ図

○情報共有等の効率化による教育の質の向上

⇒相互の授業参観が容易になることで指導力の向上を図り、義務教育9年間を通じた質の高い教育を提供。

○中1ギャップ軽減への更なる寄与

⇒児童生徒双方にとって強い安心感のある環境の実現。

目指す子ども像の共有と9年間を通じた
系統性・連続性を確保した教育課程の編成、
教職員の関わりにより、必要な資質・能力
の育成を図る

○学校間の移動がないことによる教諭の負担軽減

⇒移動にかかるタイムロスがなくなり、子どもたちと向き合う時間が確保可能。

○地域とともにある学校づくり

⇒学校と地域が一体となって特色ある学校づくりを進め、子どもたちの学びや成長を地域全体で支えるコミュニティ・スクールの導入。



2-② 南相馬市教育委員会の提案（施設一体型義務教育学校で実現できる教育環境）

施設一体型義務教育学校は、令和8年1月16日～1月30日まで実施した保護者意識調査において伺った「育ってほしいこども像」や「あるべき教育環境」を実現するための次の点で適していると考えます。

「育ってほしいこども像」 や「あるべき教育環境」	現状の成果と課題	「施設一体型義務教育学校」が適している理由
- 思いやりのある子（優しい子）を育てやすい環境 - 元気なあいさつと感謝の気持ちの育成	現状、施設分離型小中一貫教育による異学年交流により、児童生徒に自覚や思いやりの心が育っている。	施設一体型義務教育学校への移行により交流機会が増え、「思いやり」「あいさつ」「感謝の気持ち」を育む教育環境がさらに向上する。
児童生徒一人ひとりに目が届いたきめ細かな指導ができる環境	現行の施設分離型においても、児童生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かな指導体制が保護者から高く評価されている。	- 義務教育学校化により、小中9年間の成長を切れ目なく見守る一貫した環境が整う。 - 職員室の一体化による日常的な情報共有で、児童生徒の些細な変化にも早期に気付く体制が強化される。



2-② 南相馬市教育委員会の提案（施設一体型義務教育学校で実現できる教育環境）

「育ってほしいこども像」 や「あるべき教育環境」	現状の成果と課題	「施設一体型義務教育学校」が適している理由
充実した外国語教育を継続できる可能性を高める環境	- 英語の乗り入れ授業等の推進により、市学力調査や学習意欲で全国平均を上回る成果が出ている。 - 現行の教育体制は復興推進加配による教員増で維持されているが、将来的な加配終了時には教員減により、移動や日課の調整が困難となり、現行の授業体制の維持が難しくなる可能性がある。	- 施設・組織の一体化により、移動時間のロスを解消し柔軟な日課編成が可能となる。 - これにより、教員数減少等の変化が生じても、これまでと同水準の質の高い英語教育体制を維持・継承できる可能性が高まる。



2-② 南相馬市教育委員会の提案（施設一体型義務教育学校で実現できる教育環境）

なりたい姿～イメージ～

現在

合同活動

外部人材活用

乗り入れ指導

教科担任制

義務教育9年間を見通し、系統性・連続性を確保した教育課程を編成・実施（**一教科のみ**）

【理想の姿】

全教科が義務教育9年間の
連続性・系統性が確保されて
いる

未来

合同活動

異学年交流

乗り入れ指導

教科担任制

外部人材活用

義務教育9年間を見通し、系統性・連続性を確保した教育課程を編成・実施（**全教科**）

大きな壁を壊して…



2-③ 南相馬市教育委員会の提案（まとめ）

なりたい姿～イメージ～

現在

小学校⇒中学校へ

より充実を図り理想の
姿を目指して・・・

未来

施設一体型で義務教育 9 年間が
滑らかにつながる指導のバトン





2-③ 南相馬市教育委員会の提案（まとめ）

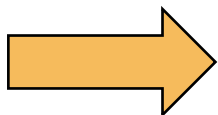
現 在：教職員の尽力により、小中一貫教育に取り組みが進められている。

課 題：2つの大きな壁（施設分離による壁、文化・制度的な壁）の存在があることで、**小中一貫教育の効果が発揮されにくい**。小中一貫教育の取り組みについても、時間の制約などもあり、**限定的になってしまう**。

解決手法：「施設一体型の義務教育学校の開設」

理 由：子どもたち9年間の学びを一貫したものとし、小中一貫教育の効果をより高める
その効果：

- ・ 「学びと育ちの連続性を確保」し、必要な資質・能力を育成するため、目指す子ども像の共有や9年間を通じた教育課程の編成や系統的な指導の充実が図れる。
- ・ 施設一体型の義務教育学校となることで、**校長のリーダーシップのもと、教職員一体となった学校運営が可能**になる。
- ・ **日常の中で、子どもたちと向き合う時間が増えることが期待できる。**



～自らの手で未来を切りひらき生きぬく子どもたちを育てるため、
より良い教育環境の充実を目指して～